

Electric beauty 00



2013.09.27

ガイダンス

1. 授業概要
2. 課題について
3. スケジュール
4. 制作について
5. 学外見学
6. ゲスト・レクチャー
7. 展覧会
8. ホームページ
9. 連絡先



授業概要

われわれの世界に存在するものには二種類しかない。

→ 自然と人工物。

人工物の多くは自然の＜ルール＞に倣って作られている。

では、人工化された＜電気＞といった場合に、何を想像するだろうか？

電気について考える

＜電気＞という物理現象が何なのか、それを伝える手段について具体的に考えてみる。

静電気や雷のような放電現象だけが、自然の電気のあり方ではない。

主に動力として日々使われている電気だけが、人工化された電気のあり方でもない。

まずは自然と人工の両面から、電気の本質について考えてみることに。

電気的特性

電気は<伝える>.

ただし、金属だけが電気を伝える物質ではなく、他にも伝導性のある物質は数限りなく存在する.

人間の体にも電気は流れるので、タッチパネル画面で直接操作が出来る.



伝える／伝わるという関係性の中で捉えてみること.

電気の産物

脳が活動状態にある時、電気が流れている。

神経細胞が電気を発して情報を伝える。

人間の思考には電気が伴う。

→ 脳波を読み取れば、脳内の活動を外在化が可能。

人間が考え、生み出したものは、全て電気であると言える。

課題について

テーマ：

電気という現象の特性を知覚可能な形式で表現する。
表現の形式、手段は自由。

言葉による説明がなくても、テーマを伝えられるかが条件。

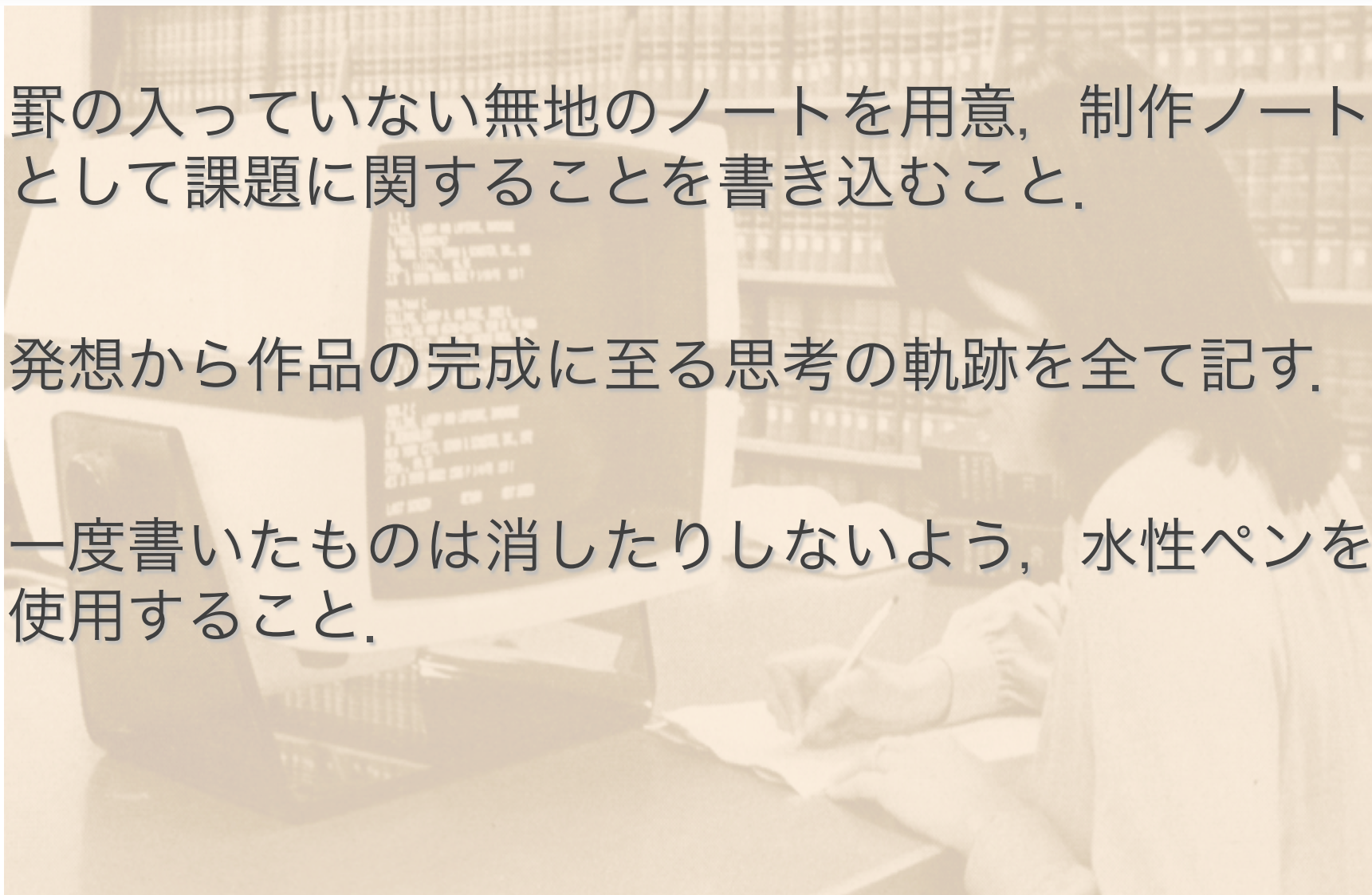
作品は説明ではなく「コミュニケーション」であることに留意。

課題のための準備

罫の入っていない無地のノートを用意，制作ノートとして課題に関することを書き込むこと。

発想から作品の完成に至る思考の軌跡を全て記す。

一度書いたものは消したりしないよう，水性ペンを使用すること。



スケジュール

学外演習（10月5日）

レクチャー／ワークショップ#1（10月11日）

レクチャー／ワークショップ#2（10月18日）

レクチャー／ワークショップ#3（10月25日）

<Maker Fair見学（11月3日， 4日）希望者のみ>

中間発表#1（11月8日）

中間発表#2（11月15日）

スケジュール

学外見学（11月22日）

ゲスト・レクチャー（11月29日）

進捗状況報告#1（12月6日）

進捗状況報告#2（12月13日）

進捗状況報告#3（12月20日）

最終確認・展覧会準備（1月10日）

講評会（1月17日）

制作について

所定の手続きを踏んだ上、アイデアを練り、詳細な作品案を計画、表現手段／素材を選択し、制作する。

制作状況の報告には「LINE」か「Facebook」を利用する予定。



制作状況の報告

テーマについてアイデアを練り上げる思考面，手を動かして素材を扱う制作面の両方を制作ノートとは別にネット上で共有する。

言葉だけでなく，図やスケッチを積極的に利用してアイデアを練り上げること。

制作上のルール

既製品の流用はせず、自分のアイデアが作品の中心になるようにする。

鑑賞者が触れる、インタラクションがあるなど何かしらコミュニケーション要素を盛り込むこと。

技術は共有する。

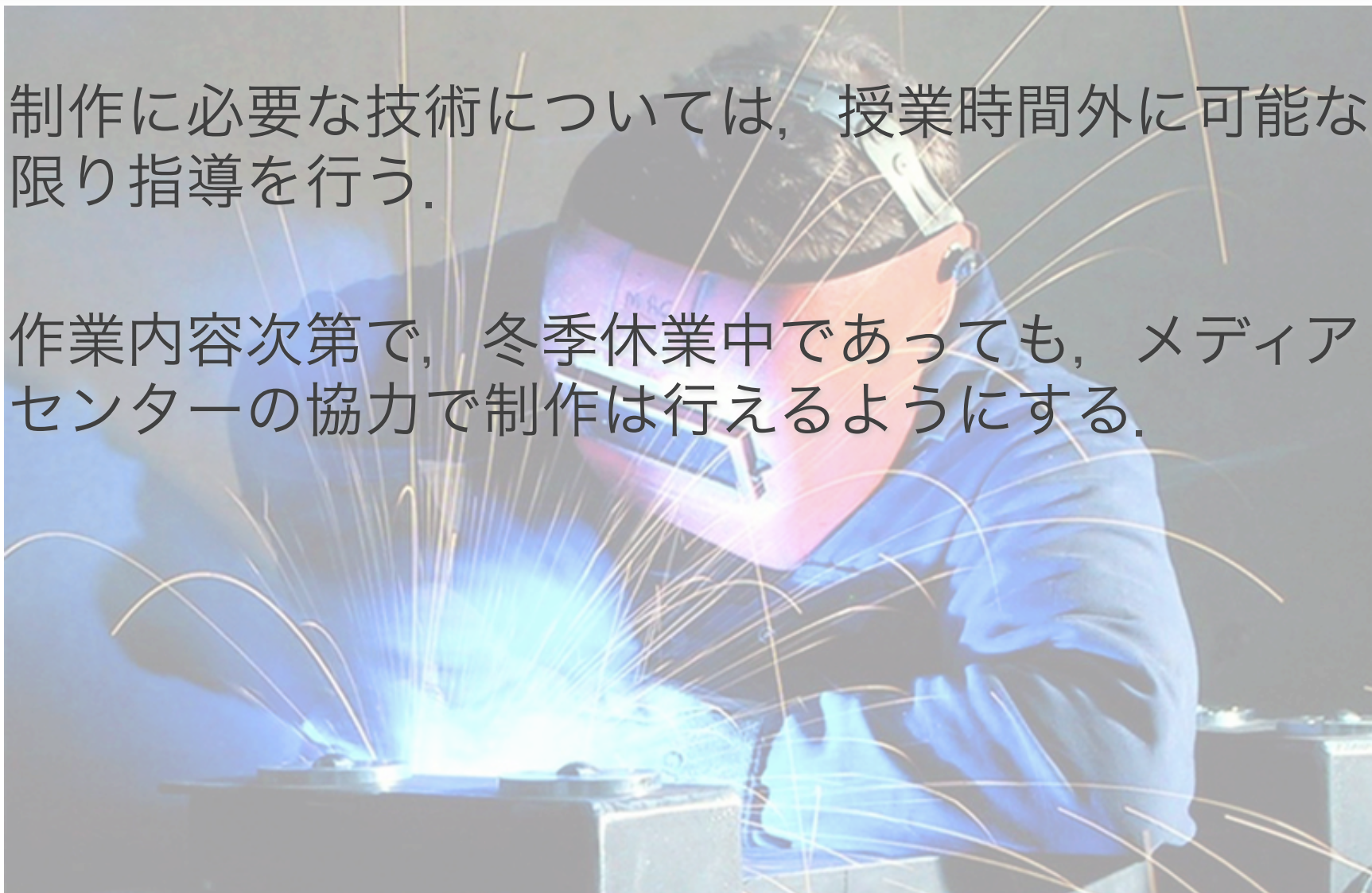
自分が作れるものだけに留めない。

自分だけで判断せず、わからないことは質問する。

制作技術に関して

制作に必要な技術については、授業時間外に可能な限り指導を行う。

作業内容次第で、冬季休業中であっても、メディアセンターの協力で制作は行えるようにする。



制作に関連する道具など

切断：ハサミ, カッター, ナイフ, ノコギリ

接合：接着剤, ネジ, 釘, 裁縫, 半田付け, 溶接

モデリング：CAD, Illustrator, レンダラー

制御：プログラミング (Processing), Arduino

仕上げ：ヤスリ, 塗装

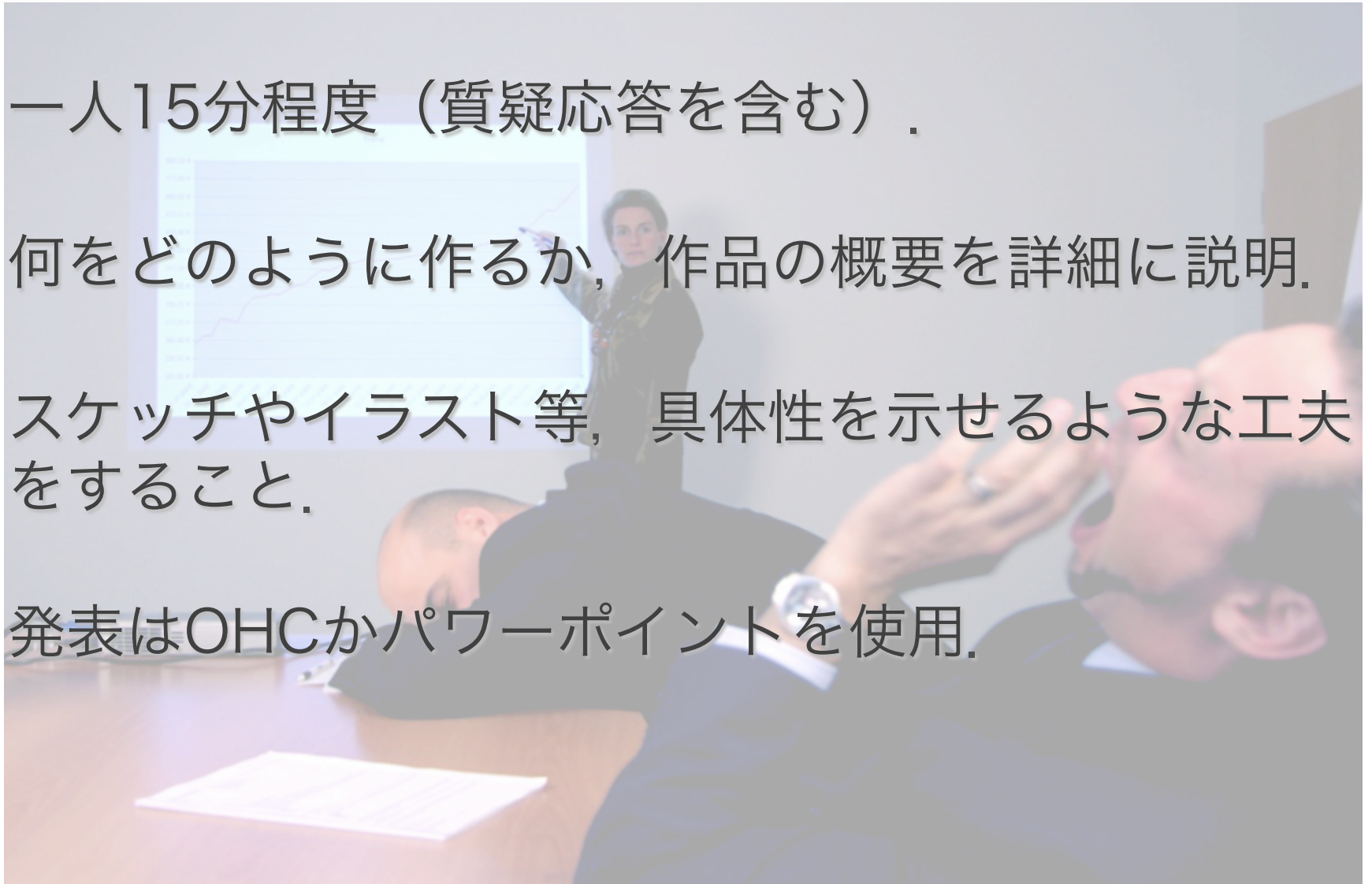
中間発表

一人15分程度（質疑応答を含む）。

何をどのように作るか，作品の概要を詳細に説明。

スケッチやイラスト等，具体性を示せるような工夫をすること。

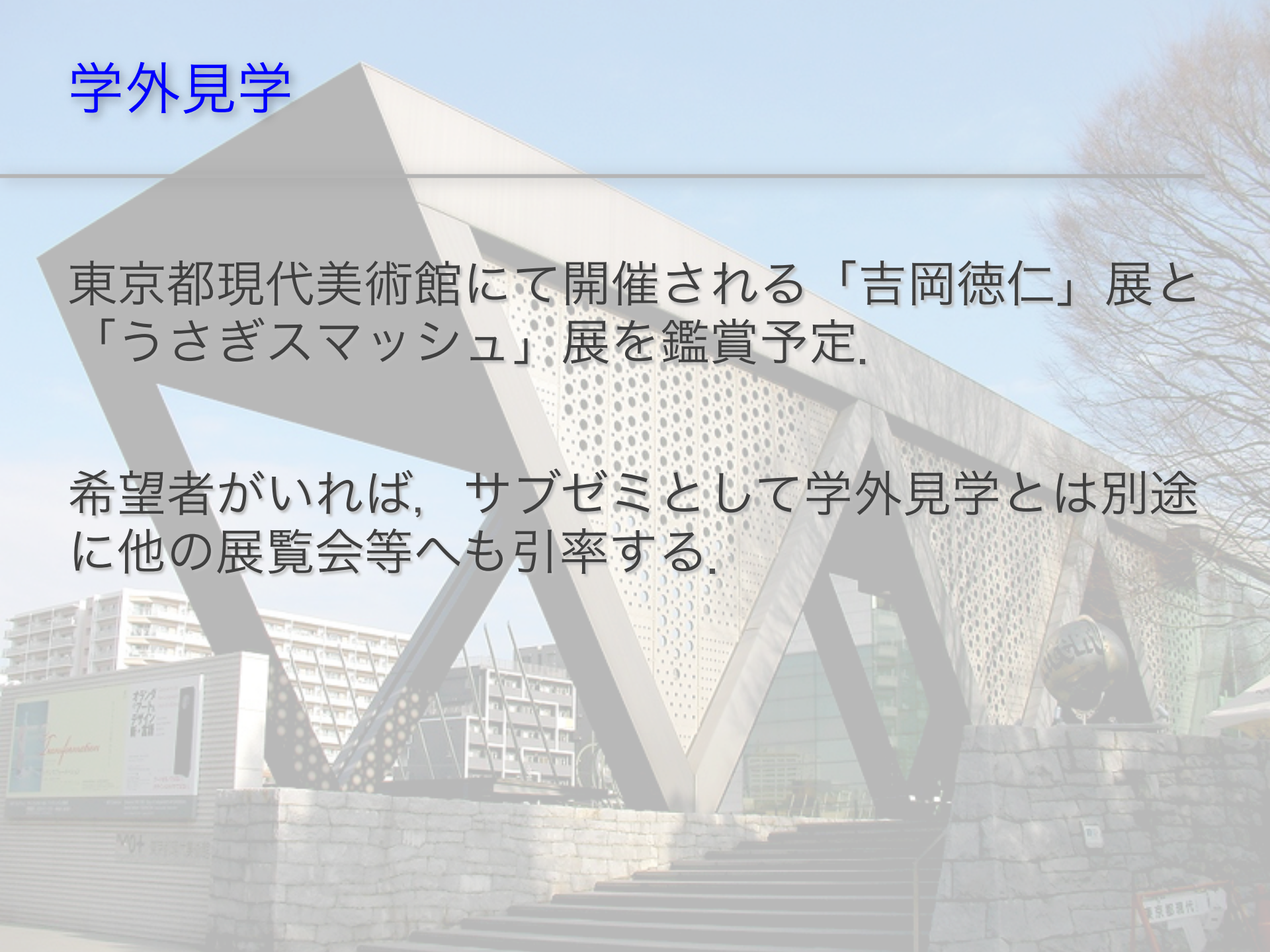
発表はOHCかパワーポイントを使用。



学外見学

東京都現代美術館にて開催される「吉岡徳仁」展と「うさぎスマッシュ」展を鑑賞予定.

希望者がいれば、サブゼミとして学外見学とは別途に他の展覧会等へも引率する.



ゲスト・レクチャー

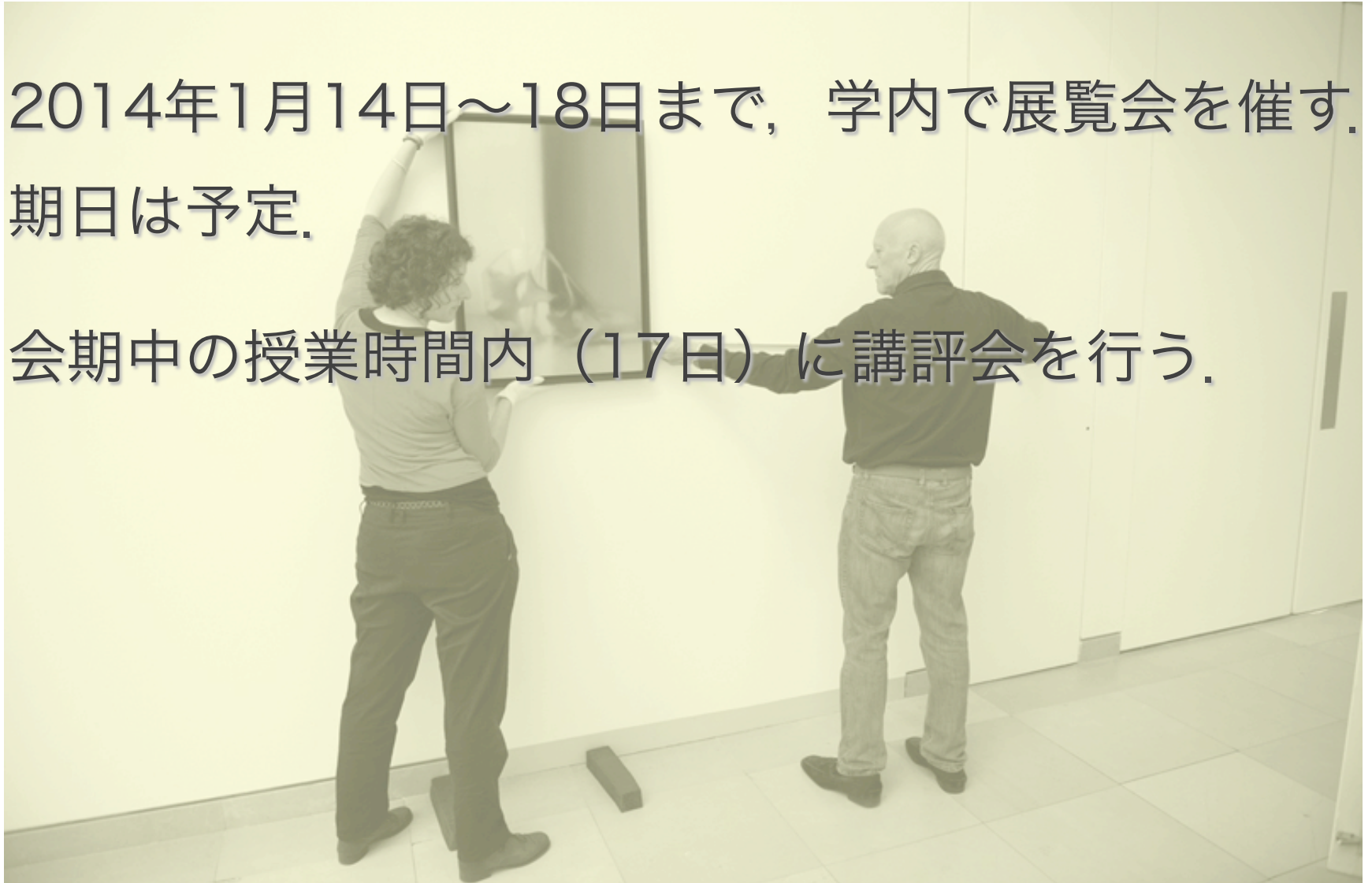
アーティストなど、創作活動を職業としているプロの作家を招き、レクチャーを行ってもらう。

現時点ではまだ未定。

展覧会

2014年1月14日～18日まで、学内で展覧会を催す。
期日は予定。

会期中の授業時間内（17日）に講評会を行う。



展示についての注意点

作品の規模／内容によっては、設置許可が下りない場合があるので、中間発表の際、どこで展示を行うかを想定の上、アイデアを練ること。

鑑賞者に危険がおよぶ可能性があるもの、設置場所を破損する可能性のあるようなものは不可。

ホームページ／連絡先

ホームページ：

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/ryo-k/>

メール：

kwkbr@rikkyo.ac.jp





授業時間外の連絡手段として、メーリングリストとtwitterを利用する.

個人アカウントでフォローしたくない場合は授業用に別途取得すること.

@Seminar_F24